

コロコロブラシ (TC・デンタル)

# 世界初の回転式歯ブラシ 作り手見つからず、自ら製造



④直径17mm、幅8mmの回転部分に5200本の毛を植えつけている。従来の歯ブラシは毛が多いもので1000本程度なので5倍以上だ

③ブラシ部分を除けば、一見普通の歯ブラシ。価格は1本3000円



①歯山興業社長は32歳。コロコロブラシは父、秀夫氏と二人三脚で誕生させた。世界で初めてのブラシ部分が回転する歯ブラシだ



②テレビ通販「QVC」で、コロコロブラシの機能を説明するベガス味岡氏(写真左)と吉原正彦氏

02年4月、ブラシ部分が回転するユニークな歯ブラシ「コロコロブラシ」が発売された。テレビ通販専門チャンネル「QVC」では、1日で1万セットの販売記録を作った。

コロコロブラシは製造元のTC・デンタルで社長を務める吉山照基氏の父、秀夫氏が自らに合う歯ブラシを求めて、素人の発想で生み出した商品。秀夫氏は歯が弱くて10年以上も悩み、歯科医の指導を受けて歯磨きしても一向に良

くならなかった。歯ブラシが原因だと思った秀夫氏は、「マイ」歯ブラシを作り始める。途中で突然思い浮かんだのが、ローラー状でブラシ部分が回転するデザインだ。ブラシになるフィラメントナイロンと柄に使う竹を用意し、手作りしてコロコロブラシの原型となる試作品を完成させた。この歯ブラシを使い続けると歯周病は改善したという。父親から話を聞いて量産化を考えた照基氏は試作品を持って製造・販売ルートの開拓を98年から開始した。国内で作られる歯ブラシの約80%を生産する大阪府八尾市内の工場を回ったが、どこも門前払い。大手メーカーの下請け工場が多く、閉鎖的だった。

製造を引き受けてくれる工場を探し、青森から福岡まで回ったブラシメーカーは30社以上に上る。たまたま、試作のブラシを作ってもらえなくても、使うと毛が抜け落ちたりするなど、まともな試作品はできなかったという。

## 医療的根拠を学会で発表

販売ルートは歯科医にしよと考える歯科医院で使う材料や薬品を扱う会社に営業した。だが、従来の機器差を示す医療的根拠がないため、扱ってもらえない。そこで、医療データを求めて大阪歯科大学病院に運ぶ。紹介されたのが、30年以上も歯ブラシの研究を続ける同大学の吉原正彦講師だ。吉原氏は大阪府茨木市で歯科医院を開き、世界中で集めた歯ブラシを展示する「歯ブラシ専門館」のオーナー。照基氏が試作品を見せると、吉原氏が自分で考えていたデザインと同じだったので驚かれたという。吉原氏に医療的根拠の実証実験を依頼し、そのデー

タは日本口腔衛生学会で発表された。だが、量産化に向けた試作品作りはまだ工場が見つからず難航した。直径0・16mmのフィラメントナイロン20本を放射線状に並べて1枚のブラシシートを作る。それを20枚重ねてローラー状のブラシ部分ができていく。一見、簡単そうに見えるが、満足するブラシはなかなかできない。ついに最後まで外注先が見つからなかった。

結局、飲食店を経営していた秀夫氏が店を閉じ、製造を担当することになった。機械メーカーに製造機械を発売し、02年4月にコロコロブラシは完成当初、月産30本だったが、4カ月後は5000本まで生産本数が上がった。価格は1本3000円。通常の歯ブラシに比べて6倍以上と高いが、ブラシが回転し毛先が細かな反発運動を繰り返すので、歯垢清掃効果は大きい。歯茎に優しく当たるため、歯周病の予防効果もある。



コロコロブラシ4本と歯磨きジェル3本のセットは1万8000円。テレビ通販が一番よく売れる

ただ、2つのメリットを消費者に説明しないと売るのは難しい。そこで、02年8月、QVCでTV通販をスタートした。カリスマ通販マン・ベガス味岡氏のセールストークも後押しして、発売以来、15万本を売り上げている。